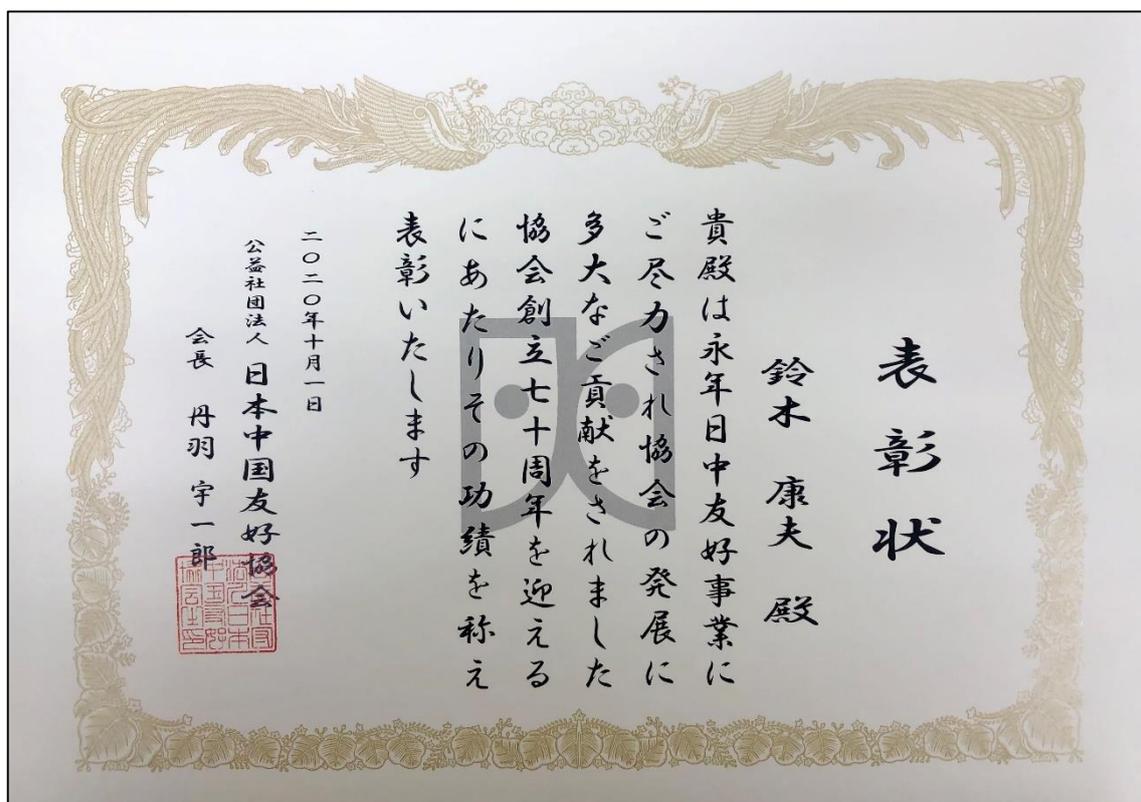


(公社) 日中友好協会創立70周年記念「永年会員表彰」

## 当協会から個人13名、団体・法人11が受章 全国は個人992名、団体・法人198に

(公社) 日中友好協会は本年10月に70周年を迎え標記の永年会員の表彰を行いました。当協会からは個人13名、法人・団体11団体(二面記載)が対象になっています。(全国:個人992名・法人・団体198。)本来であればこの表彰は10月に東京で開催予定の「70周年記念祝賀会」で行うはずでしたが、コロナ禍で祝賀会が開催されず各県日中友好協会に伝達されたものです。受賞された皆さん!おめでとうございます。長年の日中友好活動本当にご苦労さまです。受賞された皆さんには表彰状・記念品・表彰者名簿をお渡しします。



※鈴木康夫名誉会長のものを掲載

## 受章された皆さん

### <個人>

泉 喜策、近藤浩一、島崎 譲、塩井裕一、鈴木康夫、田中一孝、田村信雄、竹森勇喜  
中谷 元、藤原充子、間嶋祐一、南 岩夫（故人）、松尾美絵（敬称略・アイウエオ順）

### <団体・法人>

株式会社アキラ商店、いの町職員労働組合、高知県職員労働組合、高知市教職員組合、  
高知市職員労働組合、高知市役所、社民党高知県連合、須崎市職員労働組合、  
株式会社青花社植野、学校法人宮地学園

※表彰基準：2020年1月1日現在、25年以上の会員（個人、法人・団体）で各県日中友好協会が推薦したもの

---

## 新たに事務局次長に大久保昭彦理事を

事務局員に西岡史雄、野村佳代、沖田奈諸美、梅本 治、入江康平の各氏

2020年は役員改選期ではありませんが、9月16日の2020年度総会で事務局体制強化の面から6名の理事の選任と監事から理事への変更を行いました。そして2名の事務局次長から体調不良・病气療養のために辞任の申し出もあり、10月31日の第4回理事会で事務局次長の交替と新理事5名の事務局員の位置付けを行いました。

### ・事務局次長

退任：矢野恵子、田村信雄（※お二人とも理事として在任）

新任：大久保昭彦

### ・事務局員（新任）

西岡史雄、野村佳代、沖田奈諸美、梅本 治、入江康平の皆さん

※理事会では工科大学学生会員の入江理事の提案で、大学生の会員加入を促進するために会費水準の見直しと学生会員への情報（会報含む）のメール伝達なども議論し、12月の理事会で決定することとしました。

---

## 新規会員です！

12月1日付で大学生が入会しました。昨年12月の（公社）日中公協会主催の「2019日中友好大学生訪中団」の一員として中国を訪問してきた方です。若者の斬新なアイデアと活動に期待するところです。

西橋美月さん（高知大学3年）

## “山北”でみかん狩り（11/15）

### 留学生4名含む日中学生8名と会員など15名が交流・親睦

NPO 高知県日中友好協会は県内有数のみかん産地である香南市香我美町山北のみかん農園で11月15日に交流会を西岡理事中心に運営を行い、開催しました。新型コロナウイルスの影響で交流会などのイベント開催が難しい時期ではありますが、最近の高知県内の感染者の動向を踏まえ、フィールドワーク（みかん狩り）として高知大学から留学生4名を含む7名、高知工科大学から1名、



会員など計15名で行いました。手指のアルコール消毒、マスク着用など感染対策をしっかりと行った上で、各々がみかん狩りを楽しみました。どのみかんが甘いのか食べながら収穫を進め、みかんを頬張ったときには多くの笑顔が見られました。今回初めて参加した高知大学の鶴飼さんは「アットホームな雰囲気でありながら、充実した1日を過ごせた。特に美味しい山北みかんを食べながら、中国人留学生と異文化交流をすることができて大変満足。今度は、社会人の方々からお話を聞く機会が増えることを楽しみにしています。」と語ってくれました。収穫したみかんは持ち帰ることができ、中には5キロ分を持って帰る人もいました。みかん狩りが終わると、近くのレストランで昼食を囲み、みかん狩りや過去の訪中、今後の交流会などについて話しながら、楽しい時間を過ごしました。久しぶりの交流会というだけあって、とても楽しい有意義な交流会となりました。このような交流の輪をどん

どん広げられるように今後は新しいかたちでの交流会が必要となってきます。今後も参加者が楽しめるイベントを企画していき、新たな取り組みも開始させたいと思います。会員の拡大を目指し、今後多くの交流会を持ち、少しでも興味を持ってくれている人達との繋がりを広げられるように、取り組みを強化させていきたいと思っています。

（NPO 高知県日中友好協会 入江康平）



# 「2021 友好手帳」販売中、ご活用を！

日中の重要文書、中国全図、世界遺産、史跡、伝統行事、友好都市一覧など満載



2021年版の日中「友好手帳」を販売しています。手帳には日本・中国歳時記、中国の歴史記念日、住所録、全国地下鉄路線図や日本と中国の歴史的な文書・年史、中国全図、伝統行事（漢族・種族民族）、世界遺産（自然・文化）、少数民族、日中貿易・相互往来、友好都市一覧、中国の機関・団体一覧、など他の手帳には載っていない記述がたくさんあります。基本的な知識も得られます。ぜひ購読のうえご活用してください。

申し込みは事務局か役員まで。手帳は黒・赤の2種類です。

販売価格: 1,000 円（定価 900 円にカンパ分として 100 円を頂いて販売しています。）ご協力よろしくをお願いします。また、お知り合いにもお声がけください。

## 山野上純夫著「ヒロシマを生きて～被爆記者の回想」を 植野副会長が自費出版

広島で被爆した元毎日新聞記者、山野上純夫さん（91）【四万十町志和出身／当会報編者注】が 2019 年 7～12 月に毎日新聞夕刊（大阪本社版）で連載した「ヒロシマを生きて～被爆記者の回想」が本になった。自身も被爆した山野上さんの広島高等師範学校附属中（現広島大付属中・高）の後輩が、体験を次世代に伝えたいと申し出て費用を負担し、被爆 75 年の節目に出版した。

出版したのは山野上さんの 3 学年後輩で、あの日、同校近くで被爆して家族 3 人を失った高知市の植野克彦さん（87）。被爆後まもなく母の郷里・高知に移ったことから「消息不明」になり、68 年たって初めて同級生と再会したことなどが連載で紹介された。「私たちの被爆体験を広く知ってもらうためにも、ぜひ残したい」と考え、山野上さんと連絡を取り合って、今年 8 月 7 日の広島県版に最後の記事が載った後、自費で 500 部を刷った。（毎日新聞近畿版 2020 年 11 月 28 日夕刊より抜粋）

※県日中事務所にて 2,000 円で販売中。ご希望の方は事務所まで！

